

4 結婚・最初の子どもを持つことを希望する時期に対する中学1年生の意識

4-1 はじめに

近年のわが国における出生率の低下は、日本社会の将来に対して深刻な影響を与えることが懸念されており、少子化対策は喫緊の課題である。21世紀出生児縦断調査の対象児が生まれた平成13年の合計特殊出生率(1.33)は既に人口置換水準を下回っており、対象児は低出生率の社会で生まれた世代であると言える。彼らは、結婚・家族形成に対してどのような希望・意識を持っているのだろうか。

本章では、保護者と子どもの双方の意識を知ることができる21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)のデータを用いて、将来、結婚や子育ての当事者となっていく世代が家族形成に対してどのような希望・意識をもっているかを把握する。さらに、対象児の保護者が子育ての中でもっていた意識と対象児の意識の関連について集計を行う。

4-2 集計対象と使用した変数

集計の対象としたのは、第13回調査(13歳)に回答のあった30,331人で、これは第1回調査への回答者の64.5%にあたる。第13回調査(13歳)では、対象児本人に対し、「あなたは現在、将来について考えていますか。『進路』『結婚』『最初の子どもを持つ時期』それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。」という質問とともに選択肢を提示し、回答者自身の将来に対する意識を調査している。(選択肢は表1のとおり。)本章ではこの質問項目を用いた集計を行うことで、対象児の性別、対象児が生まれたときの母親・父親の年齢、対象児の保護者が子育ての中でもっていた意識による違いをみていく。

表1 21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）第13回調査における将来に関する質問

結婚	1	10代のうちにしたいと考えている
	2	20～24歳でしたいと考えている
	3	25～29歳でしたいと考えている
	4	30～34歳でしたいと考えている
	5	35～39歳でしたいと考えている
	6	40歳以降でしたいと考えている
	7	結婚はしたいが時期は考えていない
	8	結婚はしたくない
	9	具体的にはまだ考えていない
最初の子どもを持つ時期	1	10代のうちに持ちたいと考えている
	2	20～24歳で持ちたいと考えている
	3	25～29歳で持ちたいと考えている
	4	30～34歳で持ちたいと考えている
	5	35～39歳で持ちたいと考えている
	6	40歳以降で持ちたいと考えている
	7	子どもは持ちたいが時期は考えていない
	8	子どもは持ちたくない
	9	具体的にはまだ考えていない

4-3 結果

(1) 結婚を希望する時期と最初の子どもを持つことを希望する時期の分布

対象児の性別に、結婚を希望する時期と最初の子どもを持つことを希望する時期の分布を示したのが表2-1（男児）と表2-2（女児）である。

男児の場合、結婚と最初の子どもを持つ時期の双方に対して具体的な年齢を挙げているのは全体の33.7%であるのに対し、47.9%が結婚と第1子を希望する時期の双方に対して「具体的にはまだ考えていない」と回答している。また、6.4%が「結婚はしたいが時期は考えていない」と「子どもは持ちたいが時期は考えていない」の双方を選択していることから、男児の約半数程度が結婚・子どもを持つことの双方に対して具体的な将来像を持っていないことがうかがえる。

女児の場合には、全体の50.9%が結婚と第1子を希望する時期の双方に対して具体的な年齢を回答している。また、結婚と第1子を希望する時期の双方に対して「具体的にはまだ考えていない」と回答している割合は27.2%、「結婚はしたいが時期は考えていない」と「子どもは持ちたいが時期は考えていない」の双方を選択しているのは6.2%で、どちらも男児より低い割合である。男児よりも結婚・子どもを持つことに対して具体的な将来像をもつ傾向があると考えられる。

表2-1 対象児が結婚を希望する時期と最初の子どもを持つ時期の分布（第13回調査）
：男児

		第1子									
		10代	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以降	子どもは持 ちたいが時 期は考えて いない	子どもは持 ちたくない	具体的には まだ考えて いない	不詳
結婚	10代	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～24歳	0.0%	4.0%	7.4%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%	0.1%	0.8%	0.0%
	25～29歳	0.0%	0.1%	11.6%	6.2%	0.1%	0.0%	0.6%	0.0%	1.3%	0.1%
	30～34歳	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	0.6%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%
	35～39歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳以降	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	結婚はしたいが 時期は考えて いない	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	6.4%	0.1%	1.4%	0.0%
	結婚したくない 具体的にはま だ考えていな い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	2.2%	0.7%	0.0%
不詳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	

表2-2 対象児が結婚を希望する時期と最初の子どもを持つ時期の分布（第13回調査）
：女児

		第1子									
		10代	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以降	子どもは持 ちたいが時 期は考えて いない	子どもは持 ちたくない	具体的には まだ考えて いない	不詳
結婚	10代	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～24歳	0.0%	11.5%	14.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.9%	0.1%	1.6%	0.0%
	25～29歳	0.0%	0.1%	19.1%	4.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.2%	1.8%	0.1%
	30～34歳	0.0%	0.0%	0.1%	1.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
	35～39歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳以降	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	結婚はしたいが 時期は考えて いない	0.0%	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	6.2%	0.1%	1.3%	0.0%
	結婚したくない 具体的にはま だ考えていな い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	3.0%	0.9%	0.0%
不詳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	

(2) 母親・父親の年齢別にみた結婚を希望する時期と最初の子どもを持つことを希望する時期の傾向

結婚を希望する時期と最初の子どもを持つことを希望する時期のそれぞれについて、対象児が生まれたときの母親・父親の年齢階級別に集計を行った。母親・父親が子どもを持った時期と、子どもがもつ将来の結婚を希望する時期・最初の子どもを持つことを希望する時期の間には関連がみられる。

結婚を希望する時期については、男児の場合、対象児が生まれたときの母親の年齢が24歳以下であると10代又は20～24歳での結婚を希望する割合が19.0%であるのに対し、25～29歳では14.4%、30～34歳では11.3%、35歳以上では11.0%となっている。女児の場合も同様で、対象児が生まれたときの母親の年齢が24歳以下であった場合には10代又は20～24歳での結婚を希望する割合が38.4%、25～29歳では32.3%、30～34歳では25.9%、35歳以上では22.6%となっており、対象児が生まれたときの母親の年齢が高くなるほど、対象児が10代又は20～24歳で結婚を希望する割合が低くなる傾向がみられた。なお、父親の年齢別にみた場合にも、母親と同様の傾向がみられた(図1-1)。

最初の子どもを持つことを希望する時期についても同様で、男児では、対象児が生まれたときの母親の年齢が24歳以下であった場合には10代又は20～24歳で最初の子どもを持つことを希望する割合が9.5%であるのに対し、25～29歳では4.6%、30～34歳では3.5%となっている。これに対し、30～34歳で最初の子どもを持つことを希望する割合は、対象児が生まれたときの母親の年齢が24歳以下の場合には6.3%であるが、25～29歳では8.7%、30～34歳では10.7%となっている。

女児の場合、対象児が生まれたときの母親の年齢が24歳以下であった場合には10代又は20～24歳での最初の子どもを持つことを希望する割合が23.8%、25～29歳では14.2%、30～34歳では10.0%、35歳以上では8.8%であった。また、30～34歳で最初の子どもを持つことを希望する割合は、対象児が生まれたときの母親の年齢が24歳以下の場合には2.6%であるが、25～29歳では3.9%、30～34歳では6.7%、35歳以上では6.9%となっている。結婚を希望する時期と同様、対象児が生まれたときの母親の年齢が高くなるほど、対象児が10代又は20～24歳で第一子を持つことを希望する割合が低く、30～34歳で第一子を持つことを希望する割合が高くなる傾向がみられた。(図1-2)

図1-1 対象児が結婚を希望する時期の分布（第13回調査）

：対象児が生まれたときの母親・父親の年齢階級別

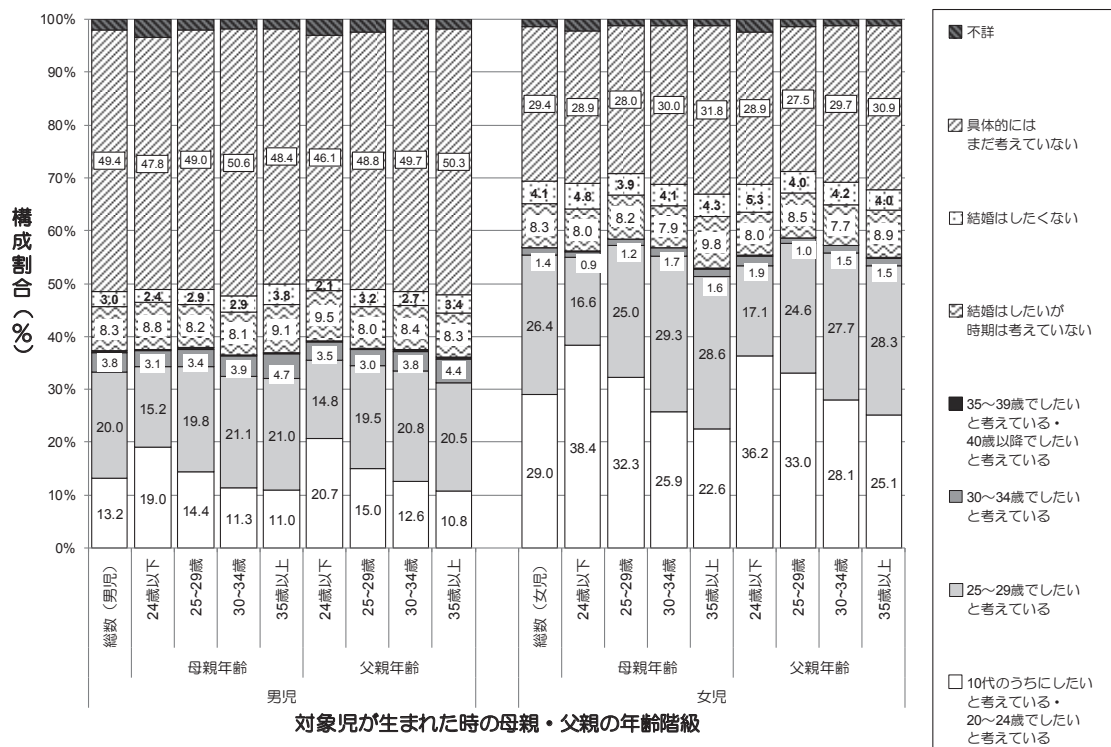
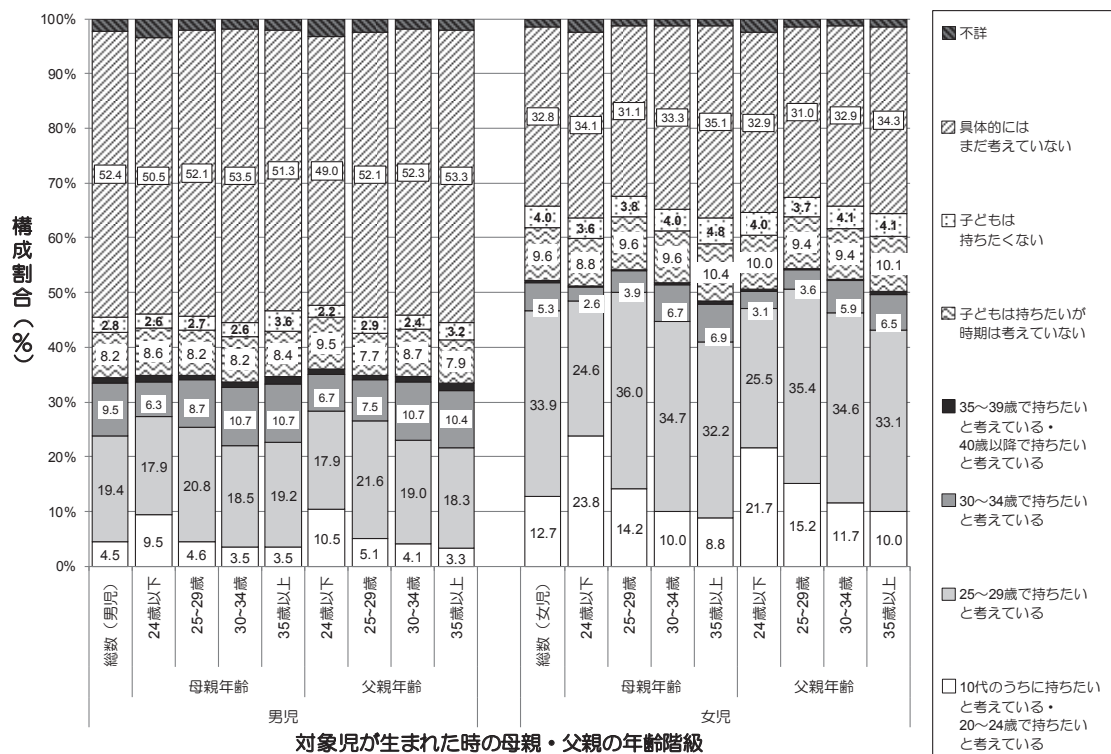


図1-2 対象児が最初の子どもを持つことを希望する時期の分布（第13回調査）

：対象児が生まれたときの母親・父親の年齢階級別



(3) 保護者の意識との関連：保護者が「子どもがいてよかったと思うこと」と対象児の意識の関連
 母親・父親が子どもを持った時期と、子ども自身が将来結婚を希望する時期・最初の子どもの持つ
 ことを希望する時期の間には関連がみられた。では、保護者が子育て期間中にもっていた意識（子ど
 もがいてよかったと思うこと）と子ども自身が結婚・最初の子どもの持つことに対して持つ意識の間
 には関連がみられるのであろうか。

21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）では、第7回調査（7歳）から第12回調査（12歳）
 まで、対象児の保護者に対し、子どもがいてよかったと思うことについて調査している。調査票では
 「平成13年生まれのお子さんがいてよかったと思うことについておたずねします。あてはまる番号
 すべてに○をつけてください」という質問文とともに選択肢を提示している（選択肢は表3のとおり）。
 第7回調査から第13回調査に連続で回答している27,168人が集計の対象である。

以下では、第7回調査（7歳）と第12回調査（12歳）時点において、子どもがいてよかったと思
 うこととして選択した選択肢の数を合計して得点化し、得点別にみた結婚を希望する時期・最初の子
 どもを持つことを希望する時期の集計を行った。

表3 子どもがいてよかったと思うこと：（第7回調査から第12回調査）

1	家族の結びつきが深まった
2	子どもとのふれあいが楽しい
3	毎日の生活にはりあいがある
4	兄弟姉妹どうしのふれあいがあって楽しい
5	子どもを通して自分の友人が増えた
6	子育てを通して自分の視野が広まった
7	子どものおかげで家庭が明るい
8	子どもの成長によるこびを感じる
9	子どもの将来が楽しみ
10	老後に希望が持てる
11	家事の手伝いをしてくれる
12	弟や妹の面倒をみってくれる
13	話し相手になる
14	優しい言葉に心が安らぐ
15	その他

結婚を希望する時期の分布では、男児の場合、第7回調査時の保護者の「子どもがいてよかったと思うこと」の得点数が0～3点のときには「具体的にはまだ考えていない」が占める割合が53.5%であるが、4～7点では49.5%、8～11点では48.9%、12～15点では45.2%となっている。また、「結婚はしたくない」と回答している割合では、0～3点では4.8%、4～7点では2.9%、8～11点では2.8%、12～15点では2.5%となっている。保護者が「子どもがいてよかったと思うこと」として挙げる項目数が多いほど、結婚を希望する時期について「具体的にはまだ考えていない」と回答する割合と、「結婚はしたくない」と回答する割合が低くなる傾向がみられた。(図2-1)

最初の子どもを持つことを希望する時期の分布をみた場合にも、保護者の「子どもがいてよかったと思うこと」の得点が多いほど、最初の子どもを希望する時期について「具体的にはまだ考えていない」と回答する割合が低くなる傾向、そして、「子どもは持ちたくない」と回答する割合が低くなる傾向がみられた(図2-2)。

なお、第12回調査の保護者の「子どもがいてよかったと思うこと」の得点別にみた場合も同様の傾向がみられた。

図2-1 対象児が結婚を希望する時期の分布(第13回調査)

: 保護者の「子どもがいてよかったと思うこと」の得点別(第7回調査、第12回調査)

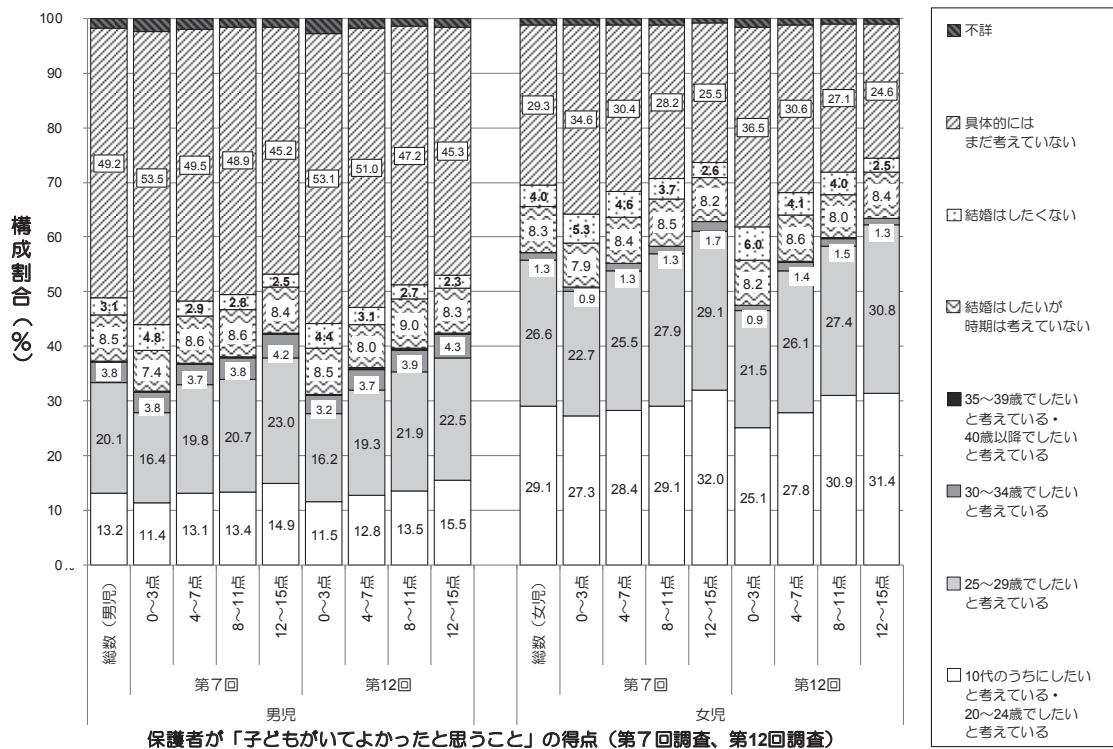
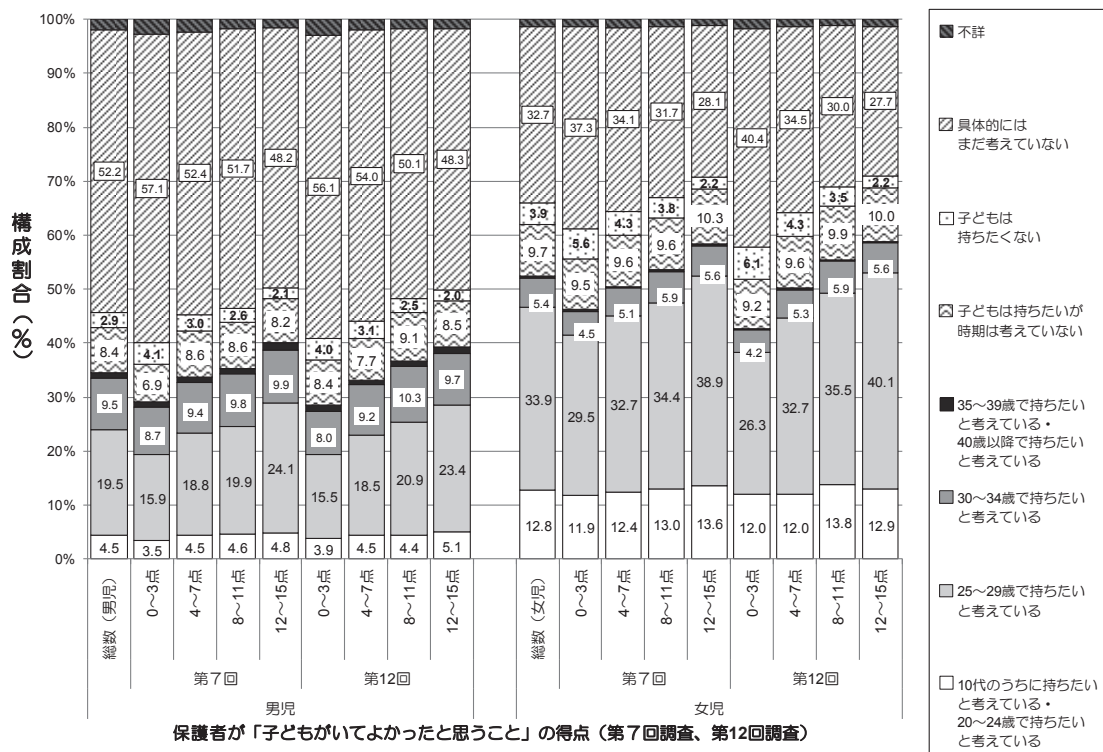


図 2-2 対象児が最初の子どもを持つことを希望する時期の分布 (第 13 回調査)
 : 保護者の「子どもがいてよかったと思うこと」の得点別 (第 7 回調査、第 12 回調査)



4-4 まとめ

本章では、21 世紀出生児縦断調査 (平成 13 年出生児) の対象児が 13 歳時点でもつ、結婚・最初の子どもを持つことに対する意識の集計を行った。その結果、男児は女児に比べて、結婚ないし最初の子どもを持つことに対して具体的には考えていない傾向があることがわかった。さらに、母親・父親の年齢と対象児の結婚・最初の子どもを持つことを希望する時期の間には関連がみられ、対象児が生まれた時の母親・父親の年齢が低いほど、対象児自身も 10 代又は 20~24 歳で結婚すること・最初の子どもを持つことを希望する割合が高くなることが明らかになった。

また、対象児の保護者が子育ての中で持っていた意識と対象児本人の意識の間に関連がみられた。保護者が「子どもがいてよかったと思うこと」として選択する項目数が多いほど、子どもは結婚・最初の子どもを持つことを希望する時期を具体的に考えている者の割合が増加する傾向、また、結婚・最初の子どもを持つことを希望しないと回答する割合が減少する傾向がみられた。